満員

生成AI駆動開発を上流から現場レベルまで組み込む【会場】（4126200）

従来のSEやプログラマーの役割を劇的に変容させる「生成AI駆動開発（AIDD）」の本質を学びます。ChatGPT等のLLMを単なる「ユーザーの期待を構造化し、自律的に実装・検証までを完遂するパートナー」として活用するための具体的ノウハウを、実例とともに習得していただきます。システム開発の生産性を次元の違うレベルへ引き上げ、競争力を高めたいITリーダー、PM、実務担当者必見のカリキュラムです。

開催日時	2026年4月8日(水) 10:00-17:00会場
JUAS研修分類	ITアーキテクト・システム企画・IT基盤(システム企画・要求定義)、データ・AI活用・技術動向(AI・新技術　検証)
カテゴリー	IS導入（構築）・IS保守 専門スキル
DXリテラシー	How(データ・技術の活用)：活用方法・事例
講師	細川泰秀 氏 （一般社団法人アドバンスト・ビジネス創造協会 副会長 ） 宮川樹生 氏 （ヒューマンハッカー株式会社　 代表取締役 ） 2017年、生成AI専門のシステム開発会社となる株式会社WEEL創業。2024年、同社を上場企業に譲渡。 2024年、AI攻撃耐性に特化したサイバーセキュリティ企業としてヒューマンハッカー株式会社を創業。
参加費	JUAS会員企業/ITC：35,200円 一般：45,100円（１名様あたり　消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（NBF東銀座スクエア２F）
対象	・情報システム部門の企画担当者、管理者 ・開発現場の生産性向上を命題とするPM、エンジニアチームの技術面を主導するリーダー ・従来の外注管理や開発手法に限界を感じているビジネス部門の方 中級
開催形式	講義
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態
会場のみ（オンラインなし）
■テキスト
当日配布
■開催日までの課題事項
特になし

生成AI駆動開発を上流から現場レベルまで組み込む【会場】
～生成AIエージェントと共創する「超上流から保守まで」の全工程・実践術

「生成AIでコードを書く」というフェーズは、もはや通過点に過ぎません。
2026年現在、現場に求められているのは、単なるツールの利用ではなく、AIエージェントを開発チームの一員として組み込み、
企画・要件定義からテスト、そして運用保守に至るまで、システムライフサイクル全体を再定義することです。

本セミナーでは、従来のSE（システムエンジニア）やプログラマーの役割を劇的に変容させる「生成AI駆動開発（AIDD）」の本質を学びます。
ChatGPT等のLLMを単なる「清書道具」や「コード生成器」としてではなく、「ユーザーの期待を構造化し、

自律的に実装・検証までを完遂するパートナー」として活用するための具体的ノウハウを、実例とともに習得していただきます。
システム開発の生産性を次元の違うレベルへ引き上げ、競争力を高めたいITリーダー、PM、実務担当者必見のカリキュラムです。

＜本セミナーの到達目標＞
・生成AIを「一部の工程」ではなく「全工程（End-to-End）」で活用する設計思想を理解する。
・AIエージェントを活用した自律的なコーディングとテスト自動化の最新手法を把握する。
・AI導入に伴う著作権、セキュリティ、エンジニアのスキル再定義などのリスク管理を習得する。

＜アジェンダ＞
1. 【イントロダクション】2026年、システム開発の現在地
・生成AI駆動開発（AIDD）の最新トレンドと主要LLMの使い分け
・なぜ「ChatGPTはプログラムを作る道具」という認識では不十分なのか

2. 【上流工程】AIによる企画・要求・要件定義の構造化と高度化
・ユーザー企業が基本的に必要とする機能と将来必要となる機能の全体感の把握
・曖昧なユーザー要望をAIとの対話でロジカルな仕様書へ昇華させる技術
・ドキュメント生成から仕様の整合性・矛盾チェックの自動化

3. 【設計・実装】AIエージェントによる自律的開発の実践
・IDE（開発環境）とAIエージェントの高度な連携デモンストレーション
・人間が「書く」から、AIが「提案・修正」するプロセスへの移行

4. 【テスト・QA】品質保証の自動化とエッジケースの抽出
・AIによるテストデータ生成とシナリオテストの自動実行
・デバッグ効率を最大化するAIフィードバックループの構築

5. 【組織・リスク管理】AIDD導入の壁をどう乗り越えるか
・セキュリティ、著作権、ガバナンスの最新ガイドライン
・AI時代のエンジニアに求められる「プロンプト以上のスキル」とは

6. 質疑応答・ディスカッション

＜参加者の声＞
・生成AI活用のポイント、適所が非常に理解できた。
・講師が用意したデータを実際にバイブコーディングして、設計書やユーザー利用画面を実装していくのは説得力があった。
・AIについての知識がなくても専門的な技術の説明がわかりやすかった。